

INVITATION

Ehime University Hospital [愛媛大学医学部附属病院広報誌]

VOL

57

2019

高度な診療・技術の提供をめざして

DOCTOR'S VOICE 01

診療や研究の環境を整え、安心して出産・育児ができる愛媛県へ

DOCTOR'S VOICE 02

口腔外科疾患の治療と研究、地域との連携、歯科医師の育成の三本柱を推進

DOCTOR'S VOICE 03

地域に求められる救急医療と、若手の思いを形にする救急医学の提供

FROM VIP DOCTOR

大学病院・地方病院・各医療機関の密度の高い連携



当院が誇るラジエーションハウス

—より精密な画像提供をめざして—

新任教授紹介

診療や研究の環境を整え、安心して出産・育児ができる愛媛県へ

小児科学講座 教授 江口 真理子

私は小児科の中でも、小児血液疾患、小児がんや遺伝医療（ゲノム医療）を専門としています。ゲノムに関心を持ったのは高校時代。患者さんの病気を治したくて、研究を診療に繋げていかねばと、がんの原因や治療法を遺伝子異常から見いだす仕事をしてきました。最近、がんの遺伝子研究から発展したがんゲノム医療が話題となっており、多くの研究者の長く地道な研究成果が診療へと繋がっていることに嬉しさを感じます。

当院は女性医師へのサポートが充実し、一人ひとりの声がよく反映されていると思います。これはすなわち患者さんの声が反映されている病院と言えると思います。スタッフがそれぞれの仕事や生活に幸せを感じる職場環境が大切だと考えます。仲間と一緒に愛媛県の小児医療をさらに発展させ、また大学としてのミッションである研究のレベルアップにも取り組み、愛媛県の小児医療の発信力を高めたいと思っています。小児科スタッフが「一緒に仕事ができてよかった」と思えることが、誰もが安心して子どもを産み育てることができる愛媛県の小児医療体制につながります。ぜひ、応援をお願いいたします。



PROFILE

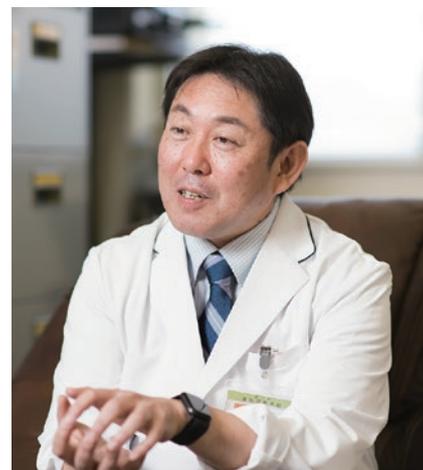
えぐちまりこ◎広島大学医学部卒業。2008年より当院、2019年より現職。好きな言葉はスティーブ・ジョブズ氏の「Have the courage to follow your heart and intuition」（自分の心を感じる勇気を持つ）。

新任教授紹介

口腔外科疾患の治療と研究、地域との連携、歯科医師の育成の三本柱を推進

口腔顎顔面外科学講座 教授 内田大亮

私は教授就任にあたって3つのことを進めていきたいと考えています。1つ目はライフワークである口腔がん、顎変形症、口唇口蓋裂の治療と研究です。当院の歯科口腔外科には、愛媛県に在籍する日本口腔外科学会の指導医6名中4名が在籍しており、手術を伴う治療など高度な口腔医療が提供できます。また、医学部内の最先端研究機器を活用した口腔がん転移の早期診断、治療効果予測などの研究を行っています。2つ目は地域の病院や診療所との連携です。高度な医療を必要とする患者さんの治療は、病気を発見してくれる地域の先生方との連携があってこそ成立するものですので、積極的に当院から情報発信をしていきます。3つ目はいい歯科医師を育てることです。当院は愛媛県で最大の歯科臨床研修施設です。歯科的知識や技術の習得だけでなく、医科的知識を兼ね備えた時代と社会に対応できる歯科医師を育成いたします。「愛媛県民でよかった、附属病院の歯科口腔外科で治療してよかった」といってもらえるよう、医局員一同、精一杯治療にあたります。お気軽にご相談ください。



PROFILE

うちだだいすけ◎1995年徳島大学歯学部卒業。2001年徳島大学歯学部助手、2014年より獨協医科大学医学部准教授となる。2019年より現職。「澹泊明志 寧静致遠」（諸葛亮孔明）が座右の銘。

新任教授紹介

地域に求められる救急医療と、若手の思いを形にする救急医学の提供

救急医学講座 教授 佐藤格夫

教授に就任し、まず考えたことは、当院と愛媛県の救急医療体制の強化です。今まで行ってきた重症患者に対する受け入れ体制の強化とともに、当院近隣の救急患者の受入れに関してもフォーカスし、救急医療体制を磐石にしたいと考えています。ドクターヘリ事業は大きな事故もなく2年半が経過しました。県全体と地域の救急医療体制をサポートするため、ドクターヘリの症例を通じて、消防署や各基幹病院と意見交換ができる場と関係も構築していきます。ドクターヘリの出動は年間300件弱ですが、全国平均の500件ほどに増えてよいと考えます。もう一つ、大切な取り組みは救急医療体制を継続・発展するための若者の育成です。救急医療は、救急科だけのことではなく、どの医療分野でも患者さんの急変は想定され、医療者ならば不可欠の知識・スキルです。若手医師や学生が、自分の理想の医師像を掲げ、それを叶えるための研修と環境を一緒に作り上げていきたいと考えています。若者の夢とともに追い、その中から、一緒に救急医療を担ってくれる医師・学生が現れることを待っています。誰も挑戦したことのないことでも一緒に頑張りましょう！



PROFILE

さとうのりお◎1995年愛媛大学医学部卒業後、同年日本医科大学救急医学教室、2011年京都大学初期診療・救急科の講師・准教授、2017年愛媛大学救急航空医療学の教授などを経て、2019年4月から現職。専門は救急医学・集中治療。趣味は若者への無償の愛（継続中）。

FROM VIP DOCTOR

愛媛大学医学部附属病院に期待すること 『VIP DOCTOR に聞く』

大学病院・地方病院・各医療機関の密度の高い連携

JCHO 宇和島病院 院長 渡部昌平

附属病院には、愛媛県の地域医療に貢献できる医師を育成する「教育」、独自の視点から医学へ貢献する「研究」、日本や世界に通用するような診療技術の開発・確立のための「研究」の3つの観点から期待しています。また、医学生や初期・後期研修の医師と地域をつなぐ地域医療支援センター、講座間の垣根を越えた研究を行う先端医療創生センターといった魅力的な目的をもったセンターにも注目しています。現在、附属病院が地域との連携で掲げている「シームレス（切れ目のない）医療」に向けて、在学生や研修医が地域の病院に来ます。早い段階で地域医療の現場や声に触れることで興味を持ち、その後のキャリアの中で地域の病院を選ぶことに繋がっています。このまま継続してほしいことの1つです。当院では働き方改革など新たな社会の要請に対応しながら、地域へよりよい医療貢献ができるよう、附属病院と更なる連携強化を考えています。



PROFILE

わたなべしょうへい◎1982年秋田大学医学部卒業。2014年より現職。

愛媛大学医学部附属病院 トピックス

お気軽にご相談ください

ボランティアいきいき会

環境美化部門の活動と、感謝状贈呈式を実施



除草作業を終えて



定期総会

令和元年5月16日(木)、当院ホスピタルパークにて、ボランティアいきいき会環境美化部門による除草作業を実施しました。34人が参加し、一生懸命作業を行ってくださり、とても美しくなりました。作業している皆さんの晴れやかな表情が印象的で、このようなボランティア活動に支えられていることを、改めて実感する1日となりました。また、令和元年6月26日(水)、ボランティアいきいき会の定期総会・感謝状贈呈式を開催し、活動員及び職員50人が参加しました。発足から19年になり、本会の開催は15回目になります。貢献活動時間が長い会員や多大なる功績を挙げた11人の会員に感謝状を贈呈しました。



除草作業

医療サービス課 ☎089-960-5099

白衣授与式を実施



平成31年4月25日(木)、記念講堂で医学科5年生110人を対象とした白衣授与式を実施しました。病棟実習の資格を得た医学生が医師を志す者としての自覚を再確認して病棟実習に臨み、将来の医療を担う人材となることを期待して、平成23年度から行っています。11人の教授が学生一人ひとりに白衣を羽織らせ、固い握手と激励を行い、学生のご家族にも参加いただき医師としての決意を見守っていただきました。

学務課 ☎089-960-5175

第64回ヘルスアカデミーを開催



令和元年6月9日(日)、第64回ヘルスアカデミー「肝臓・胆のう疾患に対する外科治療 どのような病気が手術で治るの? また肝移植とはどのような治療?」を開催し、85の方が参加しました。肝臓や胆のうに関する病気やそれに応じた治療法(特に外科治療)に加えて、外科治療の一つである肝移植医療について5人の専門家が講演を行いました。今後も市民の皆様の関心の高いテーマを取り上げた公開講座を開催します。

医療サービス課 ☎089-960-5099

マドンナサロンを開催



令和元年6月4日(火)、医学部でマドンナサロンを開催しました。これは医学部の女子学生が当院の女性医師と交流を深め、今後のキャリア形成に役立ててもらうことを目的に毎年医学部の女性医師部会が開催しています。当日は約30人が参加し、学生生活や医師としてのスキルアップ、結婚・出産・育児など、学生から多様な質問が寄せられ、女性医師は丁寧にアドバイスを行い交流を深めました。

ふれあい看護体験を実施



令和元年5月15日(水)、当院でふれあい看護体験を実施しました。看護に興味を持つ人たちに看護の仕事や現場に触れてもらえるよう毎年行い、今回は3名の女子高校生が参加しました。病棟で患者さんと接したり、スタッフステーションで多種多様な業務を体験し「もっと勉強して看護師を目指したいです」等の感想が聞かれました。

編集後記

表紙は当院が誇る診療放射線技師チームのメンバーで、TV番組のラジエーションハウスに負けず、常に診療に役立つ、精度の高い画像の提供を心掛けています。また高度な診療を提供する新任教授の各先生の抱負をご紹介いたしました。JCHO宇和島病院渡部院長からは密度の高い連携を期待するコメントをいただきました。猛暑が続く日々、栄養一杯・元気一杯を合言葉に、皆様が無事に過ごされることを願っています。

広報委員会委員長 高田清式

◎表紙

放射線部の診療放射線技師